

09 株式会社名古屋モールド

環境にやさしい

パルプモールドで

「見せるパッケージ」を提案。

話題沸騰の

製品にも採用される



家庭用ジャッキのパッケージ



人の目によるチェックは欠かせない



「見せるパッケージ」をテーマに開発したオリジナルの商品。「とびばこパン」(右)のパッケージは大ヒットとなった



商品開発に向けて意欲を語る野倉淳嗣常務

data なごやもうど

代表者役職名・氏名／代表取締役・野倉達雄
設立年月日／昭和49年5月1日
住 所／〒480-0102
丹羽郡扶桑町大字高雄字宮前161
電 話／0587-93-2771
F A X／0587-93-8574
U R L／<http://www.mould.co.jp>
E-Mail／nagoya@mould.co.jp
資 本 金／1000万円
業 種／緩衝用包装資材・パルプモールドの製造など

古紙100%を原料に利用

パルプモールドとは何か。聞きなじみがないため、多くの人がこの問いに答えられないかもしれない。しかし、実際に見たことがある人は多いはず。なぜならスーパーマーケットなどで売られている卵パックや果物トレーに使われている緩衝材、あるいは段ボール内に収められた家電製品などの上下や左右角に取り付けられている緩衝材がパルプモールドだからだ。名古屋モールドはそのメーカーとして、40年以上の歴史を持つ。

パルプモールドはそのほとんどが、原料に古紙100%を利用したリサイクル製品だ。環境保護への取り組みが産業界全体の必須の課題となっているなか、パルプモールドに注目が集まり、同社は家電、精密・通信機器、電子部品、自動車部品、機械部品などの工業製品の緩衝材を

手がけてきた。

広がるパルプモールドの可能性

パルプモールドの製造には金型を用いる。水で溶かした原料の中に金型を沈め、原料を真空ポンプで吸引して金型を引き上げる。脱水し、金型から製品を外して炉で乾燥させる工程を経た後、プレス加工で仕上げるという流れだ。

同社が製造するパルプモールド製品は約100種類にのぼる。その8割を工業製品用が占めており、残り2割が一般消費者向けのパッケージやオリジナル商品という。工業製品用の安定的な需要はあるものの、会社を持続的に成長させるためには「一般消費者に向けたオリジナル商品の強化」(野倉淳嗣常務)が一つの大きな課題としてあった。

また、パルプモールドは軽くて強度があることから緩衝材として使わ

れているが、安全な素材、印刷可能、形状が自由、独特の風合いなどの特徴があることに加え、耐水加工、断熱加工など技術的な進歩によって使用範囲が広がっている。今後、さらに可能性のある素材だ。

オリジナル商品の開発に着手

こうしたことから、同社ではパルプモールドの新たなオリジナル商品の開発と、その販路開拓をテーマにした取り組みを進めることにした。その方策として、「平成25年度補正中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」を活用。マシンニングセンター(MC)を導入した。

導入したMCで金型を製作し、これを使ったオリジナルのパルプモールド製の商品開発に着手した。そして「見せるパッケージ」をテーマに自社内でデザインをこなし、試作を繰り返して、ワインバッグ、カボチャケー

ス、動物の貯金箱、ハンガーなどを完成した。

これら商品は注目され、中でも大きくヒットしたのが「とびばこパン」のパッケージ。跳び箱のような見た目をしたパンは「インスタ映え」のブームに乗って百貨店やインターネットを通じて月間1万個以上が売れており、そのパッケージを手がけた。

また、パルプモールドならではの風合いが味わい深いワインバッグは、日本包装技術協会が主催した「日本パッケージングコンテスト2015」で「贈答品包装部門賞」を受賞している。

MC導入で、金型の製作面での課題も改善した。金型はそれまで同社で設計を行い、その加工は外注することが多かったが、一貫生産が可能となった。リードタイムは最大で2分の1程度まで短縮でき、製作コストも抑えられるようになったという。

緩衝材から“鑑賞材”へ進化

同社の手がけるパルプモールドは製品を包み運ぶための物から、鑑賞したり「取っておきたい」と思わせたりする「見せるパッケージ」へと、プロダクト素材として可能性を広げている。環境保護の一翼を担う古紙活用という発想からさらなる進化を続けているパルプモールド。同社の次なる一手に注目が集まりそうだ。



補助金の活用で導入したマシンニングセンター